

## 5. アユの重要疾病予防対策試験費

### 1) 冷水病に対する薬剤治療試験

二宮浩司・山本充孝

【背景】近年、アユ養殖場で冷水病がシュードモナス病とともに多発し、深刻な被害が出ている。

【目的】冷水病発症魚群に対して、化学療法剤の経口投与を行い、治療効果を検討した。

【成果概要】（表1、図1）

1. 平成9年12月から平成10年1月にかけて水試飼育池で発生した冷水病に対して、フロルフェニコール（10mg/kg・7日間）、スルフィソゾール（200mg/kg・日、7日間）およびスルファモノメトキシシン（100mg/kg・7日間）の経口投与による治療試験を実施した。試験期間は無投薬期間（7日間）、投薬期間（7日間）および投薬後観察期間（5日間）の19日間とした。供試魚の平均体重は1.0～1.3g/尾であった。
2. 試験期間中は日間へい死数を記録するとともに、へい死魚の一部に対して細菌検査を行い、冷水病菌の分離を行った。また、へい死魚から分離した冷水病菌を用いて、上記3剤の他、スルファモノメトキシシン・オルメトプリム配合剤、オキシリン酸の計5剤に対する薬剤感受性試験を行った。
3. 薬剤感受性試験の結果、冷水病菌はフロルフェニコール、スルフィソゾールに対して強い感受性を示したが、他の3剤に対しては感受性を示さなかった。
4. フロルフェニコール投薬区では投薬2日目からへい死数が顕著に減少し、治療効果が確認された。
5. スルフィソゾール投薬区では投薬3日目からへい死数が顕著に減少し、治療効果が確認された。
6. 冷水病菌は、スルファモノメトキシシンに対して感受性を示さなかったが、実際、投薬試験を行った結果、顕著な治療効果は確認できなかったが、投薬4日目からへい死数は減少した。

【成果の活用】冷水病に対する幾つかの化学療法剤の治療効果を確認したが、本疾病の場合、治療後しばらくして再発することが多く、再発防止対策が重要な課題となる。

表1. 冷水病菌の薬剤感受性試験結果

薬 剤 名	感受性
フロルフェニコール (FF)	+++
スルフィソゾール (3SI)	+++
スルファモノメトキシシ (SMMX)	-
スルファモノメトキシシ・オルメトプリム配合剤 (SO)	-
オキシリン酸 (OA)	-

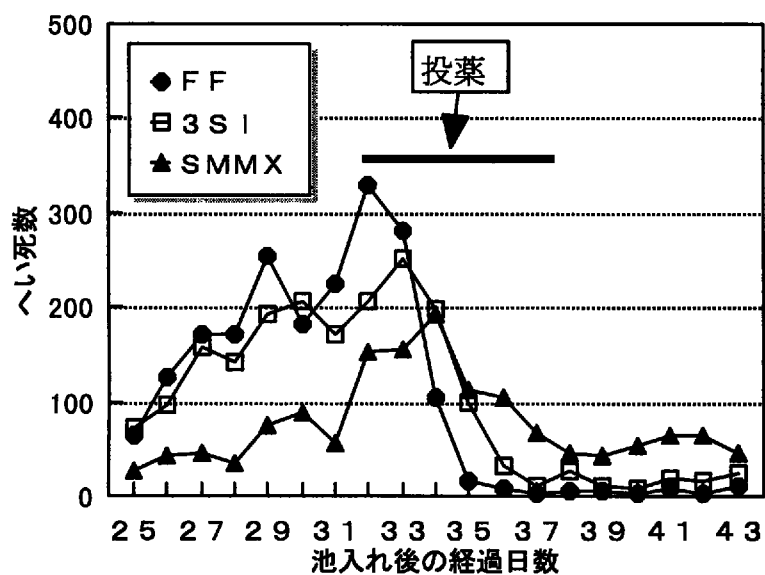


図1. 冷水病に対する薬剤治療試験